

開 講 単 位 数 一 覧								
学 年	1年次		2年次		3年次		4年次	
学 期	1Q・2Q	3Q・4Q	1Q・2Q	3Q・4Q	1Q・2Q	3Q・4Q	1Q・2Q	3Q・4Q
必 修	3	6	15.5	11.5	4	5	1	8
選 択	4	4	0	4	18	24	14	0
計	7	10	15.5	15.5	22	29	15	8
合 計	17		31		51		23	

(備 考)

1. 選択科目の中から32単位以上を修得すること。ただし以下①～④の要件を満足すること。
 - ① 備考欄に*1を付した科目から4単位以上を含むこと。
 - ② 備考欄に*2を付した科目から2単位以上を含むこと。
 - ③ 備考欄に*3, *4, *5, *6, *7を付した科目から合計26単位以上を含むこと。
 - ④ 備考欄に*3, *4, *5, *6を付した科目からそれぞれ2単位以上、かつ合計16単位以上を含むこと。
2. 入学後、許可を受けて他大学（放送大学を含む）、他学部、他コースにおいて修得した単位はすべて修得認定される。そのうち4単位までは備考欄に*7を付した科目として卒業要件単位に含めることができる。
3. 教員免許に係る教科に関する科目欄の●印は教員免許取得上の必修科目を、○印は教員免許取得上の選択科目を表す。
4. 「工業爆薬学」の単位修得者は、火薬類取扱保安責任者の資格試験のうち、一般火薬学の試験が免除される。

－社会環境デザイン工学コース－

《規 定》

履修上の注意

社会環境デザイン工学コース学生は、工学部規定及びこの手引に定められた事項に加えて、次の各項に注意して学習すること。

1. 前提履修科目

下記の授業科目の履修には、右欄の関連項目をすでに受講していることが必要である。

ただし、備考欄に並行受講可と記された授業科目については、同一学期に関連科目を受講すれば、履修できる。

授業科目	関連科目	備考
構造力学Ⅱ	構造力学Ⅰ	
地盤力学Ⅱ	地盤力学Ⅰ	
水理学Ⅱ	水理学Ⅰ	
構造力学演習Ⅰ	構造力学Ⅰ	並行受講可
地盤力学演習Ⅰ	地盤力学Ⅰ	並行受講可
水理学演習Ⅰ	水理学Ⅰ	並行受講可
構造力学演習Ⅱ	構造力学Ⅱ	並行受講可
地盤力学演習Ⅱ	地盤力学Ⅱ	並行受講可
水理学演習Ⅱ	水理学Ⅱ	並行受講可
測量学実習	測量学	

2. 卒業研究着手基準

卒業研究を履修できる資格の基準は次のとおりとする。

- (1) 教養教育科目の最低修得単位を修得していること。
- (2) 工学基礎科目および専門科目の必修科目のうち、39単位以上を修得していること。
ただし、3年第2クォーターまでに開講される工学基礎科目の全必修科目を修得するとともに、次の指定科目（計3単位）の中から2単位以上を含んでいること。

授 業 科 目	単 位
測量学実習	1
社会環境デザイン工学実験・演習A	1
社会環境デザイン工学実験・演習B	1
計	3

- (3) 工学基礎科目および専門科目の選択科目のうち、26単位以上を修得していること。
ただし、備考欄に*3, *4, *5, *6を付した科目からそれぞれ2単位以上を含んでいること。

3. 早期卒業について

早期卒業を希望するものは、コース長または教務委員に予め申し出なければならない。
また、以下の認定基準を満足しなければならない。

- (1) 3年次における卒業研究等の履修に係る認定基準
以下の条件をすべて満足すること。
 - ① 1年次末及び2年次末において成績評価が工学部規定第9条第2項に規定する上限単位数を超えて履修できる要件を満たしていること。

- ② 2年次末までに、教養教育科目の最低修得単位数を修得していること。
- ③ 2年次末までに開講される全ての工学基礎科目および専門科目（必修36単位及び選択12単位）を修得していること。
- ④ 2年次末までに修得した必修の工学基礎科目および専門科目のうち、36単位以上が評語A以上、そのうちの33単位以上が評語AAであること。
- ⑤ 2年次末までに修得した選択の工学基礎科目および専門科目のうち、12単位以上が評語A以上、そのうちの10単位以上が評語AAであること。

(2) 早期卒業の認定基準

以下の条件をすべて満足すること。

- ① 卒業に必要な工学基礎科目および専門科目の最低修得単位数86単位を修得していること。
- ② 修得した必修の工学基礎科目および専門科目のうち、54単位が評語A以上、そのうちの50単位以上が評語AAであること。
- ③ 修得した選択の工学基礎科目および専門科目のうち、32単位以上が評語A以上、そのうちの28単位以上が評語AAであること。